

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書【コロナ対策版】

制作団体名	有限会社 劇団銅鑼
公演団体名	有限会社 劇団銅鑼

内容
<p>派遣者全員に対し学校訪問前にPCR検査を実施します。コロナ対策として、マスクやマウスガードを着用します。手指消毒を徹底します。また、旅の生活においても、劇団独自の感染予防対策ガイドラインを作成し、ソーシャルディスタンスの確保を心がけ、出来るだけ公演班での会話は控え、行動記録表を取り、食事を買う為など立ち寄った店舗等についての記録をするなど、感染予防対策を徹底します。</p> <p>ワークショップの内容に変更はありませんが、換気休憩を設ける場合があります。</p> <p>基本的には①の内容でワークショップを行います。事前に対面でのワークショップが実施不可能な場合は、②または③の方法でのワークショップ実施が可能です。</p> <p>① 舞台に登場していただく生徒さん（約10名）を対象としたワークショップを対面で約100分間実施します。人数によっては出演しない生徒さんもワークショップに参加していただくことが可能です。</p> <p>【ワークショップの内容】</p> <ul style="list-style-type: none">・シアターゲーム等でウォーミングアップ。声を出して表現すること、体を使って表現すること、グループで話し合っって作品を一緒に創ることを体験してもらいます。・高校生たちが体験した動物たちとの触れ合いや、肥料にして再生するために“動物の骨を砕く”という事がどんな事なのか、どんな気持ちになるのかをディスカッションを通して想像・体験してもらいます。 <p>② 対面でのワークショップが不可能な場合、公演とは別日程・事前で約45分間のオンラインワークショップの実施が可能です。児童生徒とは対面しない、他の教室をお借りして実施。備品のパソコンをお借りする場合があります。※Wi-Fiの環境設定のため。</p> <ul style="list-style-type: none">・ワークショップの目的は変わりませんが、実施の時間が短くなるため、作品を一緒に創ることの体験やディスカッションの時間短縮など、一部内容の変更があります。 <p>③ 対面でのワークショップが不可能な場合で、公演日の前日に舞台の設置等が完了できるケースでは、公演当日に約45分間の対面でのワークショップ実施が可能です。ワークショップの後つづけて短い休憩をはさみ、約45分間の出演のためのリハーサルを行います。</p> <ul style="list-style-type: none">・ワークショップの目的は変わりませんが、実施の時間が短くなるため、作品を一緒に創ることの体験やディスカッションの時間短縮など、一部内容の変更があります。

タイムスケジュール（標準）

① の場合

到着	ご挨拶 打ち合わせ	ワークショップ	内休憩	下見・打ち合わせ	退出
※午前 実施例 8時40分	8時40分～9時	9時20分 ～ 11時	5分	11時10分～ 12時10分	12時30分
※午後 実施例 13時	13時～13時20分	13時40分 ～ 15時20分	5分	15時30分～ 16時30分	16時50分
備考	ご担当先生・校長先生 とご挨拶。 ワークショップのための 打ち合わせ。 劇団員の着替え。	授業2コマ分 の時間をいた だいています。		公演のための会場下見 とご担当先生との進行 打ち合わせ。 (約1時間) ※ワークショップ前の時 間帯でも結構です。	

② の場合

到着	ご挨拶 打ち合わせ	ワークショップ	内休憩	下見・打ち合わせ	退出
※午前 実施例 8時40分	8時40分～9時	9時20分 ～ 10時5分		11時10分～ 12時10分	12時30分
※午後 実施例 13時	13時～13時20分	13時40分 ～ 14時25分		15時30分～ 16時30分	16時50分
備考	ご担当先生・校長先生 とご挨拶。 ワークショップのための 打ち合わせ。 PCの準備など。	授業1コマ分 の時間をいた だいています。		公演のための会場下見 とご担当先生との進行 打ち合わせ。 (約1時間) ※ワークショップ前の時 間帯でも結構です。	

③ の場合

公演日の前日に舞台の設営が完了。
以下、公演当日のタイムスケジュール。

到着	ワークショップ	休憩	リハーサル	本公演	退出
9時30分	10時30分～ 11時15分	10分間	11時25分～ 12時10分	13時30分～ 15時15分	17:00
備考	授業1コマ分の時間をいただいています。		授業1コマ分の時間をいただいています。	公演終了後撤去のための時間をいただきます。	

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください

主指導者1名 補助者5名 計6名

学校における事前指導

①の場合

●参加する児童生徒さんに「自分で呼ばれたい名前」の名札をつけてもらいます。ワークショップが始まる前にガムテープなどにマジックで書いてもらい洋服に貼っておいて下さい。

●参加する児童生徒さんへのお願いです。飼っている、もしくは飼っていたペットの、写真か絵を描いて持ってきてください。飼った経験がない人はこれから飼いたい動物の写真か絵を。想像上の生き物や絶滅した生き物でもOKです。グループトークで使用します。離れた人からも見えるように、写真などはA4サイズほどに拡大プリント（またはコピー）をお願いします。

②の場合

教室の児童・生徒さんを数グループに分けていただき、1グループに1台の端末をご用意ください。

③の場合

●参加する児童生徒さんに「自分で呼ばれたい名前」の名札をつけてもらいます。ワークショップが始まる前にガムテープなどにマジックで書いてもらい洋服に貼っておいて下さい。

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書【コロナ対策版】

制作団体名	有限会社 劇団銅鑼
公演団体名	有限会社 劇団銅鑼

<p>演目</p> <p>「いのちの花」 原作：向井愛実著「いのちの花」（株式会社 WAVE 出版刊） 瀧 晴巳著「世界でいちばんかなしい花 それは青森の女子高生たちがペット殺処分ゼロを目指して咲かせた花」（ギャンビット刊） 脚本：畑澤聖悟 演出：齊藤理恵子</p> <p>公演時間（100分）</p> <p>※派遣者全員に対し学校訪問前に PCR 検査を定期的実施します。公演中の出演者以外はマスクを常時着用します。公演中は出演者がマスクを着用しないため、ステージ前面から客席最前列まで3m空けて着席してもらうよう配置します。手指消毒を徹底します。また、旅の生活においても、劇団独自の感染予防対策ガイドラインを作成し、ソーシャルディスタンスの確保を心がけ、出来るだけ公演班での会話は控え、行動記録表を取り、食事を買う為など立ち寄った店舗等についての記録をするなど、感染予防対策を徹底します。</p>
--

<p>派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください</p> <p>出演者：10名 スタッフ：11名 合計21名</p>

<p>タイムスケジュール（標準）</p> <p>※希望により上演途中で10分間の換気休憩を設けます。その場合、終演時間が15:30頃になります。</p>					
到着	仕込み	本公演	内休憩	撤去	退出
8時	8時～13時 ※11時過ぎ出演児童リハーサル (授業1コマ分)	※13時30分～15時15分	※10分	15時30分～16時45分	17時

実施校への協力依頼人員

会場の条件によっては、公演当日までにカーテンのない窓を（手の届く範囲で）段ボール等で塞ぐ作業を依頼する場合があります。ピアノがステージ上にあり、袖中に納まらない場合は劇団員と一緒に先生方の手を借りてステージ下におろす作業を依頼する場合があります。会場の床にシートを敷きたいと希望された場合は仕込みの前日までに先生方で敷いていただくようお願いしています。

上演中、トイレなどの出入りのため入退場口に先生1～2名の待機をお願いします。椅子で観劇する場合、仕込み終了後の時間帯で先生・児童生徒に椅子並べの作業のご協力をお願いします。

演目解説

その広い広い大地と空の下、希望に胸を膨らませて動物化学科に入学したマナミたち。糞の匂いにやられながらも家畜たちの世話に励む日々。そして飼育しているニワトリを実習で解体し調理して自分たちで食べる。「いただきます」という言葉の意味を考える。そして東日本大震災――

ある日、見学に訪れた動物愛護センターで、殺処分された動物たちの骨が「ゴミ」として捨てられていることを知る――

自分たちに出来ることはないだろうか？

声を上げることもできずに死んでいった動物たちの「いのち」。

彼女たちは、動物たちの骨を使って花を咲かせ、蘇らせることを思いつく。

名付けて“いのちの花プロジェクト”。

彼女らが咲かせた花を受け取ってくれる人はいるのだろうか？

感動の実話の舞台化。

舞台上に、実際には動物は登場しません。イメージできるように、映像を舞台装置に投影します。

脚本は、高校演劇の第一人者であり、数多くの劇団に話題作を提供し続ける現役高校教師・畑澤聖悟。演出には劇団青年座の新進気鋭の演出家・齊藤理恵子を迎え、疾走する5人の女子高生の物語をお届けします。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

公演の終盤、高校生たちが殺処分された動物たちの骨を肥料にして育てた「いのちの花」を受け取ってくれるよう客席にむけて話します。そのシーンで出演する児童生徒たち（※約10名）は客席から舞台上に上がり、花を受け取ります。その際に事前ワークショップやリハーサルを経て、「自分だったら高校生たちにどんな言葉をかけるか？」ということを考えた上でセリフにして言ってもらいます。このシーンの終わりで自分の席にもどり、続きを観劇してもらいます。

※舞台上に人が密集しないよう出演する児童生徒さんたちの人数を約10名に限らせていただきます。その代わりワークショップには参加したが出演はしない児童生徒さんたちにはリハーサル時に花を受け取る写真を撮影し、このシーンでプロジェクターで舞台セットに投影します。小道具の花は必ず事前事後に消毒します。

児童生徒とのふれあい

公演当日のリハーサルの中で（リハ参加者はワークショップに参加した児童生徒さんに限らせていただきます）、ウォーミングアップのシアターゲームを行いワークショップに来ていない俳優たちとも交流します。またバックステージツアーを行い、舞台セットや照明・音響機材の説明をします。希望により、終演後に出演者1名と感想などを話す機会や搬出手伝いをしながらの俳優・スタッフとの交流の機会を設けます。

※公演中以外は出演者も必ずマスクやマウスガードを着用して実施します。バックステージツアーの事前事後に小道具、大道具、機材の消毒を行います。

※通常は、公演終盤に出演する児童生徒たちが客席に戻るタイミングで、俳優たちも一緒に客席に下り、客席の児童生徒たちにも花を受け取ってもらうよう1人1人に声をかけていくシーンがありますが、感染状況によっては演出を変更し、俳優たちが客席に下りる演出は行いません。